

平成 21 年 5 月 21 日現在

研究種目：基盤研究 (C)
 研究期間：2007～2008
 課題番号：19520515
 研究課題名（和文） 日英パラレルコーパスを利用した英語指導法の確立
 研究課題名（英文） Establishing a teaching method using Japanese-English parallel corpus
 研究代表者
 中條 清美 (CHUJO KIYOMI)
 日本大学・生産工学部・准教授
 研究者番号：50339272

研究成果の概要：

日英パラレルコーパスを利用した英語指導法と教材開発を行い、指導実践によってそれらの学習効果を検証した。さらに、コーパス検索サイトの開発を推進した。主な研究成果を国際学会（AsiaTEFL 国際会議、台湾教育学会、TaLC、World CALL）および国内学会（JACET、英語コーパス学会）において報告し、開発した指導法等の詳細を公刊した。本課題に関する論文を掲載した著書が Rodopi（アムステルダム）と松柏社（東京）より出版された。研究代表者は本課題に関連して 2008 年度英語コーパス学会賞を受賞した。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	2,000,000	600,000	2,600,000
2008年度	1,500,000	450,000	1,950,000
年度			
年度			
年度			
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：教育工学，教材，教育メディア一般，コーパス

1. 研究開始当初の背景

(1) 電子コーパス誕生後 40 年が経過し、英語コーパスの研究・教育への利用は世界的な動向である。しかし、英語圏の国々の積極的活用と比べ、我が国では一部の英語学・英文学の研究利用に留まり、教育への応用は遅れている。コーパスは帰納的学習を可能にするツールとしてその特性を発揮するが、モノリンガル仕様であるため、検索結果の英文が難しすぎて、学習者が語法の検証や発見を行うまでには至らず、コーパスの教育現場での普及の阻害要因のひとつとなっている。そのため、我が国をはじめ、英語を外国語とする

国々では英語コーパスが英語圏のように普及していない。

(2) 申請者らは、この障害を克服するものとして、既に公開している世界最大規模の日英パラレルコーパスを利用する指導法に取り組むことにした。日英パラレルコーパスは英語の文例とそれに対応する日本語訳が表示されるので、英文理解の難易度を下げることができる。加えて、豊富な文脈の中で、英語が実際に使われている様子を日本語の訳とともに観察することでできる。

(2) コーパス利用学習は、教師がルールを教え込む伝統的な演繹的教授法と異なり、初

めにキーワードを含む例文を示し、その言語の使用実態の観察から語句の意味や文法の規則性を学習者自身が発見する「言語データの提示→ルール発見」という帰納的な学習過程をたどる。この学習法は「データ駆動型学習 (Data-Driven Learning: DDL)」と呼ばれ、自然な言語習得において見られる「膨大な量の言語との接触→気づき」というプロセスを日本のような外国語学習環境において疑似体験させることができるため、教育への利用価値は高いと考えられる。新しい学習スタイルをもたらすと期待されるパラレルコーパスであるが、その教育利用に関する研究は、世界的に見ても緒に就いたばかりであり、コーパスを英語授業で「直接利用」する活用方法や指導効果の実証研究の結果が待たれているという状況であった。

2. 研究の目的

本研究は、日英パラレルコーパスを利用した英語指導法を確立し、その教育効果を検証することを目的とする。具体的には、次の3つの研究を相互連関的に実施する。

(1) これまでに申請者らが蓄積してきた基礎研究および実践研究より得られた知見に基づいて、パラレルコーパスを利用したコースウェアを開発する。初級・中級学習者用に適用するコーパス学習活動を提案し、「どのようにコーパスを英語学習に応用するか」という具体的な指導の方法を示す。

(2) 開発したコースウェアを指導実践し、事前・事後テスト等を用いて、「どのような学習効果をあげることができるか」というコーパス利用学習の有用性を検証する。初級・中級学習者用コースウェアについて1年間の指導実践の効果を測定し、学習効果を比較・調査する。

(3) 英語教育におけるコーパスの普及促進を図るとともに、教育利用における今後の課題を明らかにする。そのために、パラレルコーパス検索ツールの開発研究を行い、コーパスの実践的利用の推進を目指す。

3. 研究の方法

研究目的(1)については、先行研究調査と本研究に先行して行われた3年間の指導実践に参加した学習者からのフィードバック情報を考慮した上で、第二言語習得研究に基づく認知プロセスに沿うコーパス利用指導法の枠組みを構築した。構想した指導法は、指導実践と改良を繰り返してより効果的な指導法を目指す。

研究目的(2)については、基礎研究に基づいてコーパス利用教材を開発し、指導実践を行い、事前・事後テストにより学習効果を検証する。(1)と(2)の研究は循環して行われ、授業実践の結果に基づいて改良を加え、改訂した

教材を新たに実践するという過程を繰り返す。

研究目的(3)については、ウェブ検索プログラムのプロトタイプを作成する。

4. 研究成果

研究目的(1)については、コーパス利用指導法として、第二言語習得研究に基づく認知プロセスに沿う形で、4ステップ DDL (Data-Driven Learning) 指導法を提案した。すなわち、①帰納的学習による仮説形成、②教師による明示的説明、③follow-up 練習問題による仮説検証、④産出活動による統合促進、を組み合わせた指導法である。①と②は①暗示的指導と②明示的指導を組み合わせるものであり、これは第二言語習得研究において効果が報告されているものである。

研究目的(2)については、コーパスを英語学習に利用する試みは英語教育およびコーパス言語学の分野においてまだ新規的であり、DDL 学習の指導実践の報告はあまり見られないという現状である。本研究の DDL 実践は大学の一般英語クラスで主として初級学習者を対象として行われた。文構造理解の基礎である名詞句構造と動詞句構造を重点的に学習するコーパス利用教材を開発し、指導実践を行い、学習効果を検証した。具体的には文法基礎力テストとして、①品詞の区分、②可算・不可算、③屈折、④派生、⑤名詞句、⑥動詞句の知識・理解を問う問題に加えて、⑦応用文法問題を含む合計138問のテストを用いた。その結果、開発した教材は英文理解の基礎となる種々の文法項目の能力を向上させることが確認できた。

研究目的(3)については、パラレルコーパス専用のウェブ検索プログラムのプロトタイプ作成を完了し、今後、試用しながら改良を加えていく予定である。

1年目の研究成果としては、基礎研究として行った日英パラレルコーパスの教材レベルに関する論文「Towards building a usable corpus collection for the ELT classroom」が、E. Hidalgo 他(編)の著書「*Corpora in the Foreign Language Classroom*」に採録され、Rodopi (アムステルダム)より出版された。開発した教材を使った指導実践とその効果については AsiaTEFL 国際会議 (6/10/2007) にて報告し、同会議発表論文集に論文を公刊した。また、開発した指導法およびコースウェアの詳細を日本大学生産工学部研究報告 B (文系) に公刊した。さらに、普及促進活動として、英語教員、英語教員養成課程学生対象にワークショップを千葉大学にて開催した (11/30/2007)。

2年目の研究成果としては、日英パラレルコーパスの指導実践に関する論文「コーパスに基づいたシラバスデザインとその実践」が、

中村純作他(編)の著書『コーパスと英語教育の接点』(松柏社)に収録され出版された。また、開発した教材を使った指導実践とその種々の効果の分析結果を、台湾教育学会(5/3/2008), TaLC (Teaching and Language Corpora Conference: 7/5/2008), World CALL (8/7/2008) の3つの国際学会, および国内学会(大学英語学会, 9/12/2008)にて報告した。ウェブ検索プログラムのプロトタイプについては2009年度にリバプール大学で開催されるコーパス言語学会議における学会発表が決定している。また、開発した指導法および指導効果の詳細を『日本大学生産工学部研究報告 B(文系)』に公刊した。

本研究課題等による英語コーパス指導実践研究への貢献に対し、研究代表者が2008年度英語コーパス学会賞を受賞したことは、本研究課題による成果が認められた結果と考える。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 6件)

- ① 中條清美, 内堀朝子, 西垣知佳子, 宮崎海理: コーパスを利用した基礎文法指導とその評価, 日本大学生産工学部研究報告 B(文系), 第42巻, (2009 印刷中). 査読有
- ② K. Chujo, K. Oghigian: A DDL approach to learning noun and verb phrases in the beginner level EFL classroom. *Proceedings of the 8th Teaching and Language Corpora Conference*: pp. 65-71, 2008. 査読有
- ③ K. Chujo, K. Oghigian, C. Nishigaki: Hands-on Japanese-English parallel corpus experience in the EFL CALL classroom. *Proceedings of the 25th International Conference of English Teaching and Learning*, National Chung Cheng University: pp. 1-10, 2008. 査読有
- ④ 中條清美, 西垣知佳子, 内堀朝子, キャサリン・オヒガン: データ駆動型学習による効果的な英語初級者向け文法指導の試み. 日本大学生産工学部研究報告 B(文系), 第41巻, pp. 15-33, 2008. 査読有
- ⑤ K. Chujo, K. Oghigian: Discovering Grammar basics with parallel concordancing in the beginner-level EFL classroom. *Proceedings of the 2007 Asia TEFL International Conference*, pp. 1-14, 2007. 査読有
- ⑥ 中條清美, 西垣知佳子, 内堀朝子: パラレルコーパスを利用した文法発見学習の試

み. 日本大学生産工学部研究報告 B(文系), 第40巻, pp. 33-46, 2007. 査読有

[学会発表] (計 5件)

- ① 中條清美: 日英パラレルコーパスを利用した文法学習, 第47回大学英語教育学会全国大会, 早稲田大学, 9/12/2008.
- ② K. Chujo: Lexico-grammatical DDL lessons using a Bilingual Concordancer, WorldCALL 2008, Fukuoka, Japan, 8/7/2008.
- ③ K. Chujo: A DDL approach to learning noun and verb phrases in the beginner level EFL classroom. The 8th Teaching and Language Corpora Conference, Lisbon, Portugal, 7/5/2008.
- ④ K. Chujo: Hands-on Japanese-English parallel corpus experience in the EFL CALL classroom. The 25th International Conference of English Teaching and Learning, National Chung Cheng University, Taiwan, 5/3/2008.
- ⑤ K. Chujo: Discovering Grammar basics with parallel concordancing in the beginner-level EFL classroom. The 2007 Asia TEFL International Conference, Kuala Lumpur, Malaysia, 6/10/2007.

[図書] (計 2件)

- ① 中條清美: コーパスに基づいたシラバスデザインとその実践. 中村純作, 堀田秀吾(編)『コーパスと英語教育の接点』松柏社(東京), pp. 65-88, 2008
- ② K. Chujo, M. Utiyama, C. Nishigaki: Towards building a usable corpus collection for the ELT classroom. *Corpora in the Foreign Language Classroom*, in E. Hidalgo, L. Quereda, and J. Santana (eds.), Amsterdam: Rodopi, pp. 47-69, 2007.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中條 清美 (CHUJO KIYOMI)
日本大学・生産工学部・准教授
研究者番号: 50339272

(2) 連携研究者

西垣 知佳子 (NISHIGAKI CHIKAKO)
千葉大学・教育学部・准教授
研究者番号: 70265354

内山 将夫 (UTIYAMA MASAO)
独立行政法人情報通信研究機構・知識創成
コミュニケーション研究センター・研究員
研究者番号: 70293496

内堀 朝子 (UCHIBORI ASAKO)
日本大学・生産工学部・講師
研究者番号：70366566